

# TG-PRESS

SEPTEMBER 2018

TOGAKU  2020 PROJECT

## TOKYO 2020を 自身の成長につなげよう!

「東京」を拠点とし、1964年大会の資料も多数所蔵する  
本学ならではの活動「TOGAKU 2020プロジェクト」がスタート!



TOPICS ▶ P.5 夏の国際交流レポート

連載 ▶ P.12 今こそ、「東京」で「東京」を学ぶ。



# 「TOGAKU 2020 プロジェクト」がスタート!

東洋学園大学では、2020年開催の東京オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、東京2020大会）に向けて、学内における機運を高めて同大会の学生ボランティアを輩出すべく、「TOGAKU2020プロジェクト」を実施しています。東京2020大会の開催地「東京」に位置し、1964年大会の資料も多数所蔵するなど、オリンピックにゆかりのある本学。2014年には東京2020大会の大学連携協定を締結し、オリンピック教育の推進やグローバル人材の育成、パラリンピックの理解促進などを進めてきました。「TOGAKU2020プロジェクト」もその一環であり、学生一人ひとりが東京2020大会を「自分ごと」として捉え、自発的にボランティアとして大会に関わり、自身の成長につなげてほしいと願っています。

## TOPIC 1 大学を挙げて スポーツボランティアを推奨



ボランティア募集の資料を  
熟読する学生



6月のミーティングには2日間で約170名の学生が参加



シンポジウムでは新条氏（右）と学生の対談も

### 学内ポスターや説明会を通じて ボランティア希望者が増加!

東京2020大会へのボランティア参加を後押しするため、本学ではメールやポスターを通じて学生にボランティア情報を発信したり、説明会を開催しています。

昨年11月には緊急シンポジウム「君もスポーツボランティアに 2020オリンピック・パラリンピックを選手と一緒に支

えよう」を開催。リオ五輪通訳ボランティア経験者の新条正恵氏に体験談やボランティアの役割について解説いただいたほか、スポーツボランティア経験のある在学学生との対談も行いました。

また、今年6月・7月には「TOGAKUオリパラ ボランティア・ミーティング」を実施し、9月から始まるオリパラボランティア募集の情報を共有。さらに、8月末に行われた外部説明会「大学連携'18

プログラム 東京2020オリンピック・パラリンピックボランティア募集説明会」に本学の学生2名と教職員が出席。東京2020大会のボランティアについて、活動分野や主な役割・活動内容等についての説明を受けました。

こうした取り組みを受け、スポーツボランティアに興味を持つ学生が増加しているのはもちろん、実際に活動を始める学生も着実に増えてきています。

# 2 オープンキャンパスで「オリ・パラ体験コーナー」を実施

## 高校生と保護者に向けて 五輪資料展示やボッチャ体験会を開催

8月19・26日に開催されたオープンキャンパスでは、特別企画として「TOGAKU オリ・パラ体験コーナー」を開設しました。会場には、本学が所蔵する1964年東京大会の五輪旗などを展示し、聖火用トーチを持って写真撮影ができるコーナーも設置。東京2020大会のボランティアを目指す学生有志が集まり、本学とオリンピックのつながりや、スポーツボランティアの役割などについて高校生に説明しました。

また、パラリンピック公式種目「ボッチャ」の普及活動の一環として、本学公認ボッチャサークル「TOGAKUパラスポーツ」に所属する学生有志が、来場した高校生にボッチャのルールを解説しつつ一緒にプレーを楽しみました。



ボッチャのルールや見どころを高校生に解説

本学所蔵のトーチや五輪旗を紹介する学生



1964年東京大会の聖火用トーチを持った高校生を本学学生が撮影!

### 学園祭の会場でボッチャを体験しよう!

10月に開催される学園祭でもボッチャサークルによる体験会が開催される予定です。どなたでも参加できますので、ぜひ実際にプレーしてパラスポーツやパラリンピックへの理解を深めてみてください。

第26回 フェニクス祭 - 郷郷祭り  
日時：2018年10月13・14日



ボッチャはカーリングにも似たパラスポーツ

東京2020大会に向けてボランティア経験を積みたいと思い、本イベントのリーダーを務めさせていただきました。ボッチャのおもしろさや、本学がオリンピックにゆかりのある大学であることを高校生のみなさんに伝えたいと思って精一杯がんばりました!



吉田 悠人 よしだ ゆうと

現代経営学部2年  
私立浦和実業学園  
高等学校出身

## 東洋学園大学とオリンピック

### 本学では、1964年東京大会の貴重な資料を多数所蔵!



本学の前身である東洋女子短期大学の元学長・愛知揆一は、1964年東京大会当時の文部大臣であり、財団法人オリンピック組織委員会の理事を務めました。その愛知元学長が残した東京五輪資料を本学では多数所蔵。情熱の記憶を次世代に伝える貴重な資料として、オリンピックにまつわる学内イベント時などに一部を公開しています。

#### 【本学史料室所蔵資料(一部)】



第62次 IOC総会開会式プログラム



OOC記念碑



聖火用トーチ



五輪旗(オリンピック・シンボル)



開会式入場券



OOC記念品 超小型テレビ

# スポーツボランティアとして 学生たちが自発的に活動！



ボッチャサークルの木村さん(左から3人目)と橋本さん(右端)がボランティア参加した文京区のイベント

## スポーツボランティアに挑戦する TOGAKU生が続々登場！

昨年11月には、国際キャリアプログラム(ICP)の佐藤会沙さんと中田莉可さんが「BFA U-15アジア野球選手権大会」にボランティア参加。学部留学で身につけた英語力を活かし、通訳として選手やスタッフをサポートしました。

また、今年6月に開催された「文京スポーツセンター」のリニューアル記念イベントには、人間科学部4年の木村駿汰さんがスポーツボランティアとして参加。8/24(金)にも木村さんと同学部1年の橋本昂典さんが文京区のイベントでボッ

チャ体験のボランティアをしました。

ほかにも東京マラソンにボランティア参加したり、来年日本で開催されるラグビーワールドカップへのボランティア参加を希望する学生も。東京2020大会に向けて多くの学生が率先してボランティア経験を積んでいます。



野球大会ではICPの学生が通訳ボランティアとして活躍

## スポーツボランティアを目指す 学生たちの声

### 「いろいろな人とふれあい 支えることにやりがいを感じる」

これまでは自分自身がスキーや水泳、陸上、ボッチャなどを楽しんできましたが、プレーヤーとは別の形でスポーツに関わってみたいと思い、文京区の「文京スポーツボランティア」に登録。すでに7回ほど経験を積み、人とふれあい、支えることにやりがいを感じています。今後もプレーヤーとボランティアの両方を続けていきたいです。



**木村 駿汰**  
きむら しゅんた  
人間科学部4年  
秋田県立  
小坂高等学校出身

### 「東京2020大会のボランティア になれるよう経験を積みたい」

出身高校のラグビー部が全国大会に出るくらい強くて、それをきっかけにスポーツに興味を持ちました。東京2020大会のボランティアを目指していて、経験を積むために来年のラグビーワールドカップにボランティア参加する予定です。人と協力して何かをするのが好きなので、ボランティアでもチームワークを大切にしたいです。



**沼澤 明歩**  
ぬまざわ あきほ  
現代経営学部2年  
埼玉県立  
深谷高等学校出身

## 2020年を見据えた研究にメディアも注目！

### 『新国立競技場建設定点観測プロジェクト』

グローバル・コミュニケーション学部の「情報化社会ゼミ」(荻野博司教授)と「現代都市文化ゼミ」(泰松範行教授)による『新国立競技場建設定点観測プロジェクト』がNHKの取材を受け、7/24(火)の「あさイチ」と「首都圏ネットワーク」、7/25(水)の「おはよう日本」で紹介されました。

2020年東京オリンピック・パラリンピックのメイン会場となる新国立競技場の建設現場をリアルタイムに観測し、変わりゆく東京を学ぶ『新国立競技場建設定点観測プロジェクト』。東京のど真ん中にキャンパスを構える本学だからこそできる研究に、メディアも注目しています。





# Global Experience

## 夏の国際交流レポート



学生たちのグローバル体験の模様をお届けします！  
この夏も、短期留学やインターンシップなどさまざまな国際交流が実施され、多くの学生が参加して自身の成長につなげました。



### 短期留学

#### イギリス&オーストラリアへの短期留学に多くの学生が参加！

夏休みを利用した短期留学が今夏も開催され、イギリスプログラムには1～4年生まで11名が参加。ウェールズ地方にあるスウォンジー大学の寮に滞在し、2週間にわたって語学やイギリス文化を学びました。他国からの留学生も多い同大学での毎日は、本学の学生にとっていい刺激になった様子。放課後や休日はウェールズの首都・カーディフを観光するなど、アクティビティも楽しんだようです。

一方、オーストラリアプログラムには1～3年生まで14名が参加。ゴールドコーストのボンド大学で英語コースを受講しました。現地では、学校に通うだけでなくホストファミリーや友人と観光・ショッピングなどを楽しみ、人とのふれあいを通じて現地の生活や文化を体感し、日本との違いを肌で感じたようです。



イギリス・スウォンジー大学での授業風景。様々な国からの留学生とも交流した

### 韓国短期語学留学プレ開催

#### 現地学生との交流も深まった韓国での夏期語学研修

韓国での短期語学留学が、今夏プレ開催されました。今年6月に協定校となった韓国・聖公会大学校の夏期語学研修

に3年生3名が参加。韓国語や韓国の文化を学ぶとともに、週に1度の交流会を通じて現地の大学生や先生たちとの親交を深めました。約2週間の研修を終え、帰国した学生からは、「帰国後も韓国の人と交流して韓国文化をさらに深く学びたい」などの感想も。韓国語学習へのモチベーションが大幅にアップしたようです。



交流会を通じて仲良くなった現地学生とSNSや連絡先を交換し、放課後や休日にも親交を深めた

### 海外インターンシップ

#### カンボジアとアメリカでリアルな就業体験に挑戦！

アンコール遺跡群への入口として世界各地から大勢の観光客が訪れるカンボジアのシェムリアップ。同地の日系旅行会社でインターンシップを行うプログラムが開催され、グローバル・コミュニケーション学科の2～3年生4名が参加しました。現地では、約1週間にわたりホテルや観光ツアーの視察、ゲストハウス運営などを体験し、ツーリズムの現場を学びつつアジアの文化を肌で感じました。

一方、アメリカプログラムでは、ヒューストン市役所で約1ヶ月にわたるインターンシップを実施しました。今回参加したのは、英語コミュニケーション学科の2年生1名。市役所職員の指導を受けながら講演会の準備・運営、関係者との会議といった実際の業務を体験し、英語力は

もちろん、海外でのビジネスマナーやビジネススキルも身についたようです。



アメリカ・ヒューストン市役所ではカンファレンス運営や会議などの実務を担当。リアルなビジネス英語を学ぶ好機に

### 長期留学

#### 今年度はアメリカと中国へ4名が半年～1年間の長期留学へ

国際的視野を持ち、社会に貢献できる将来有望な学生を育成することを目的に、各種長期留学制度(半年～1年)を実施している本学。今回、学内での審査により2年生4名の長期留学申請が承認され、今年度秋学期からそれぞれアメリカのワシントン大学(半年間)、ユタバレー州立大学(1年間)、カナダのカルガリー大学(1年間)、そして中国の浙江旅游職業学院(1年間)で長期留学を行うことになりました。

7/19(木)には認定式が行われ、旦祐介学長から各学生に長期留学認定証が、国際交流センター長の久村恵子教授からは今回協定校に留学する2名に協定校留学奨学金が授与されました。



認定式に参加し、「長期留学への挑戦で自分を成長させたい!」との決意を新たにした学生たち

2018年度春学期に行われた授業や  
キャンパスライフにまつわるニュースをお届け！

## English Lounge

### 今年のテーマはポーランド！ 海外文化を体験する特別イベントが開催

今春から1号館3階に場所を移してリニューアルしたEnglish Lounge。英語や海外文化を楽しむLounge Eventを定期開催しています。その一環として、6/14（木）には「ポーランド・デー」を開催。一昨年の「アフガン・デー」、昨年の「スリランカ・デー」に続く年1回の特別イベントの第3弾で、今年はインターン Weronikaの故郷であるポーランド共和国をテーマに開催され、本学の学生・教職員のほか、地域住民の方々にもご来場いただきました。



ポーランド  
ダンスのチームが  
ゲスト出演！



## SHSU in TOGAKU

### SHSUの学生がサマースクールで来学！ イベントや授業を通じて本学の学生と交流

6/4（月）～26（火）の約1か月間、サム・ヒューストン州立大学（SHSU）のサマースクール「SHSU in TOGAKU」が実施されました。今年は、ウェルカムパーティーや1泊2日の栃木旅行などの恒例イベントに加え、さまざまな授業にも参加したSHSUの学生たち。現代経営学部の「基礎英語」や英語コミュニケーション学科の「児童英語教育ゼミ」などの授業に加わり、本学の学生たちと交流しました。

Welcome to  
Japan!



## 大学院

### 大学院の創立10周年を記念して ネパールの大学と合同プロジェクトを実施

東洋学園大学大学院 現代経営研究科は、今年で創立10周年を迎えました。記念行事として、ネパールのKing's CollegeよりDr. Bharat P. Bhattaと大学院生5名を招き、本学の大学院生との合同リサーチプロジェクトを実施。「Urban Business Studies」をテーマに、日本とネパールの視点から「民泊ビジネス」や「ソーシャルビジネス」などについて共同研究し、研究発表を行いました。また、記念イベントや本学教授陣による特別講義・学外研修なども行われました。



## 文京区との連携

### 文京区と「相互協力に関する協定」を締結 「文京アカデミア講座」の開講にも協力

今年3月、文京区と「相互協力に関する協定」を締結した本学。今後は官学連携・協力をさらに推進し、地域に根差した大学を目指します。「文京アカデミア講座」の開講もその一環で、文京区の生涯学習講座を本郷キャンパスで開講。2018年前期は、本学の阿部一教授による「『風土』から日本文化を考える」と、河島弘美講師による「アメリカ文学の名作を読む」を開講し、大盛況のうちに終了しました。後期は勝田薫教授による「アメリカ文化史を探る」と光川眞壽准教授による「誰でもできる健康体力づくり」を開講予定です。



## 体感しながら文化を学ぶ! アイヌ文化交流センター学外研修

5/30(水)、「多文化理解ゼミII」(佐藤泉教授)が学外研修で東京・八重洲にあるアイヌ文化交流センターを訪問。学芸員の説明を受けながら手作りの民族衣装や手工芸品などを見学したり、伝統楽器トンコリとムックリ(口琴)の演奏の仕方を教わったり、民族衣装を着用したりと、目で見て手で触れながらアイヌ文化を学びました。



## 国際関係ゼミ・国際政治経済学生研究会が 毎年恒例の夏合宿を北軽井沢で実施

8/24(金)～26(日)、「国際関係ゼミ」(長尾悟教授)と学生有志による「国際政治経済学生研究会」のメンバーらが毎年恒例の夏合宿を実施。ゼミ生が卒業論文内容を発表したほか、有志学生が国際関係に関する研究発表を行いました。合宿には在生に加え卒業生も参加し、研究発表に対する討論や国際的な諸問題について意見交換をしつつ、親睦を深めました。

## 夏休みを利用し、日本とタイで 日本語教育の学外研修を実施

日本語教員養成課程で学ぶ学生らが、夏休みを利用して学外研修に参加。国内では、3年生3名がヒューマンアカデミー日本語学校東京校でティーチング・アシスタントとして授業に参加し、留学生への指導法や授業の進め方を学びました(写真)。また国外では、2～3年生4名がタイのチュラーロンコーン大学、DPU、国際交流基金バンコクオフィスを訪問。現地の日本語教育について学びました。

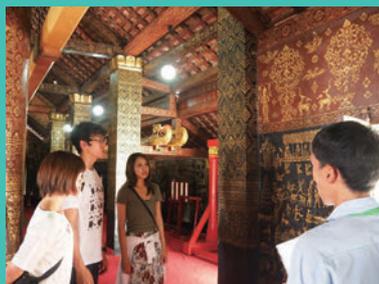


## 翻訳文化ゼミが 伝統工芸品“有松絞り”の ドキュメンタリー映画 翻訳を担当



「翻訳研究ゼミ」(松本美千代教授)が、400年以上の歴史を持つ伝統工芸品“有松絞り”のドキュメンタリー映画『未来につながる有松絞り』の英訳を担当。ゼミ生5名が夏休みを利用して「有松・鳴海絞会館」(愛知県名古屋)を訪問し、完成した映画を鑑賞したほか、映画のテーマとなった有松絞り職人と交流し、絞り実演などを見学して、伝統文化の現場を体験しました。

## エコツーリズムの聖地ラオスで エコツアーの現状を調査する学外研修



「エコツーリズム論」(泰松範行教授)が、8/4(土)～9(木)にラオスで学外研修を実施。街全体が世界遺産というルアンパバーンに滞在し、現地の自然を活かしたエコツアーに参加したほか、寺院や伝統工芸、不発弾処理に関する展示施設の見学、フィールドスタディなどを通じて途上国におけるエコツアーの役割について学びました。

「エコツーリズム論」(泰松範行教授)が、8/4(土)～9(木)にラオスで学外研修を実施。街全体が世界遺産というルアンパバーンに滞在し、現地の自然を活かしたエコツアーに参加したほか、寺院や伝統工芸、不発弾処理に関する展示施設の見学、フィールドスタディなどを通じて途上国におけるエコツアーの役割について学びました。

## 子どもたちとコミュニケーションしながら 英語の楽しさを伝える「グローバル英語体験」

6/25(月)、「児童英語教育ゼミ」(坂本ひとみ教授)の3・4年生6名とインターンのWeronika、Erikが地元・文京区内の学童クラブを訪問し、子どもたちに「グローバル英語体験」を行いました。小学生が放課後を過ごす学童クラブでの実施は今回で2回目。今回は「ポーランド」をテーマに、文化の紹介や絵本の読みかきせを行うなど学生と児童と一緒に楽しみながら英語体験を行いました。同実習は今後も定期的に行っていく予定です。



現代経営学部



### インバウンドビジネスの学びの一環として SHSUの学生を築地エリアにご案内!

6/16(土)、「日本文化と観光産業ゼミ」(大村恵子教授)の学生らが、SHSUの学生に築地市場とその近郊エリアを案内する学外研修を実施しました。ゼミ生たちは築地周辺の観光資源や文化・歴史をリサーチし、半日ツアーを企画。SHSUの学生が買い物や試食を楽しめるように築地場外を案内したり、寺社仏閣では歴史や文化を説明するなど、英語と日本語を交えながらガイド役として奮闘しました。

現代経営学部

### 「働き方改革」を推進する総務省を視察 未来の働き方について考える学外研修

今年6月、「働き方改革関連法」が参議院本会議で決決して成立したことを背景に、7月、本庄加代子准教授のゼミ生13名が「働き方改革」を推進する総務省行政管理局を視察しました。オフィス見学に加え、同局企画調整課長の箕浦龍一氏とも対話した学生たち。「働き方改革」が労働者一人ひとりの成長機会に直結する前向きな改革であることを学び、自らの将来の働き方を考えるきっかけにもなったようです。



現代経営学部

### 公正取引委員会の職員による特別講義 「独占禁止法教室」を今年も開講



6/7(木)、公正取引委員会の職員である加瀬川晃啓氏が来学し、現代経営学部の「ビジネス法」(鷗瀬恵子教授)で「独占禁止法教室」を開催しました。講義のテーマは「カルテル・談合と公正取引委員会の役割」。具体的な事例を挙げたり、学生と双方向でやり取りしながら、カルテル・談合が消費者の暮らしに及ぼす影響を分かりやすくお話いただきました。

6/7(木)、公正取引委員会の職員である加瀬川晃啓氏が来学し、現代経営学部の「ビジネス法」(鷗瀬恵子教授)で「独占禁止法教室」を開催しました。講義のテーマは「カルテル・談合と公正取引委員会の役割」。具体的な事例を挙げたり、学生と双方向でやり取りしながら、カルテル・談合が消費者の暮らしに及ぼす影響を分かりやすくお話いただきました。

現代経営学部

### 学園祭での演劇上演を目指して 多方面と連携しながら奮闘!

「アーツマネジメントゼミ」(今井克佳教授)では、英語コミュニケーション学科「翻訳研究ゼミ」(松本美千代教授)、演劇サークル「劇団ハレっけ」と連携し、シェイクスピアの戯曲『ロミオとジュリエット』の翻訳&学園祭での上演を目指すプロジェクトを進めています。その一環として、6月には演出家の金田一央紀氏を講師に招き、「ロミオとジュリエットを面白く上演する」ためのノウハウを学びました。



現代経営学部・大学院

### 現役経営者を講師に迎え 生きた経営ノウハウを学ぶ貴重な機会

現代経営学部と大学院現代経営研究科の共催による「現代経営研究会 第11期(2018年度)」が9月からスタート。右記の日程・演題で開催予定です。場所は本郷キャンパス1号館2階フェニックスホール。開催時間は原則18:00~19:30です。一般の方も参加可能で聴講無料、予約不要ですので、ふるってご参加ください。

2018年度 現代経営研究会開催予定

※予定は変更になる場合があります。

9月26日(水)	KDDI株式会社 代表取締役会長 田中 孝司氏 演題:「通信業界を取り巻く大変化とKDDIの未来~これからの5Gの時代を見据えて~」
10月17日(水)	株式会社エアウィーブ 代表取締役会長兼社長 高岡 本州氏 演題:「『The Quality Sleep』の追究『睡眠のトータルソリューションプロバイダー』へ」
10月24日(水)	星野リゾート 代表 星野 佳路氏 演題:「観光立国への道」
11月7日(水)	森トラスト株式会社 代表取締役社長 伊達 美和子氏 演題:「JAPANブランド~都市開発とホテル・リゾート事業の今後~」
11月28日(水)	セコム株式会社 代表取締役社長 中山 泰男氏 演題:「2020年、さらに未来へ!~喜びも感動も、安全・安心の先にある~」
12月12日(水)	株式会社ソラシドエア前社長 株式会社日本経済研究所代表取締役 高橋 洋氏 演題:「ローカルエアラインの再建に取り組んだ6年間」

## カウンセリングや心理療法にも役立つ 多彩な実習を通じて「こころ」を学ぶ

7/12(木)、「人間科学基礎演習A」(有木永子准教授)にて、東洋女子短期大学卒業生でアロマセラピストの大橋未来子さんを招き、アロマオイルの効能や使い方、香りが人の心身に及ぼす影響などについての特別授業を実施しました。「人間科学基礎演習A」では、他にも「フィンガーペインティング」や「カッティングコラージュ」などの実習を取り入れており、学生たちは言語的・非言語的コミュニケーションを体験しながら、自分や他者への理解を深めています。



## 納涼祭のボランティア参加を通じて 地域とのつながりを深める

7/15(日)、本郷キャンパスの地元にある本郷大横丁通り商店街で商店会主催の納涼祭が行われ、「社会と人間ゼミ」「地域共生特講」を履修する4年生、及び「人間と社会ゼミ」の3年生と、指導を担当する宮園久栄教授がボランティアとして参加。主に子ども向けのアクティビティを企画・運営し、地域の人々とつながりを深めました。



## 自治会活動を実際に参加しながら調査・研究 葛飾区との官学連携プロジェクトがスタート

地域やまちづくりについて学ぶ「人間と社会ゼミ-2」(小山弘美講師)が葛飾区と連携し、東金町中央自治会の方々と交流をしながら地域の活動や課題を調査・研究するプロジェクトがスタート。7月から事前の交流を行い、学生たちが自治会の活動に参加しながら学んでいます。8/25(土)の「夕涼み会」では前日準備から翌日の後片付けまで奮闘し、地域の方々と親睦を深めました。



## キャンパス近隣の保育園で 保育士の仕事に挑戦!

本郷キャンパスのすぐそばにある文京区立本郷保育園で、「保育体験」(福田佳織教授)の履修学生による保育実習が行われました。当日は、保育士のアドバイスを受けながら、保育園における一日の流れに沿って子どもたちと交流。発達心理学や保育士の仕事内容、保育技術について体験しながら学べる貴重な機会となりました。



## 障がい者スポーツを理解するため シッティングバレーボールを実体験

6/26(火)、「スポーツ・健康ゼミ-1」(澁谷智久准教授)と「スポーツ・健康ゼミ-3」(光川眞壽准教授)の3年生が合同ゼミを実施。パラリンピックや障がい者スポーツに関して学ぶとともに、パラリンピック夏季大会の正式種目であるシッティングバレーボールを体験し、「残された能力、今ある能力を向上・発揮させる」という障がい者スポーツのポイントを肌で学びました。



学部長賞

資格試験や大会で成果を収めた  
2名の学生に学部長優秀賞を授与



東洋学園大学では、資格試験や大会等で優秀な成績を収めた学生に学部長賞を授与しています。今回は、2名の学生に学部長優秀賞を授与。心理学検定2級に合格した人間科学部3年の須賀更紗さんと、「MOS世界学生大会2018」日本代表選考の大学・短期大学部門（パワーポイント）で1位に輝いた人間科学部4年の宮森万葉さんに贈られました。



国際キャリアプログラム

国際キャリアプログラム（ICP）4期生が  
アメリカ留学に向けた結団式に出席

ICPでは、2年生7名が秋学期からアメリカに留学します。留学を目前に控えた7/19（木）には結団式が開催され、且祐介学長から留学の認定証と奨学金の目録が手渡されたほか、学生一人ひとりが英語でスピーチを行い、留学先での目標などを語りました。



キャリアセンター

セミナーや企業見学会で就活をサポート！  
夏休み中も多彩なイベントを開催

キャリアセンターでは、夏休み期間中も多彩なイベントを開催。8/9（木）に行われたアパレル企業「銀座マギー」の見学会には1～3年生の9名が参加。人事課長からお話を伺ったほか、社員の方々と交流会やデザイン工房などの見学も行われました。秋学期以降も企業とのコラボ企画を含め、進路選択に役立つ多彩な企画を開催します。



学園祭

10/13（土）・14（日）に開催！  
第26回東洋学園大学 フェニックス祭 — 郷郷祭り —

スローガンは「伝統と革新 — 平成最後の郷郷祭り」  
トークショーやライブも満載で盛り上がり必至！

10/13、14の2日間にわたって、フェニックス祭が開催されます。スローガンの「伝統と革新」には、これまで積み上げてきたものを引き継ぎ、本郷で全学部揃ってから3年目の学園祭として、これから先の未来へつなげる新たな伝統を作っていきたいという思いが込められています。

今年の学園祭は、昨年以上にゼミやサークルなどの参加団体数が増え、より賑やかになる予定。芸能人トークショーやお笑いライブ、アイドルライブも実施予定です。

また、流山時代から続く伝統の「出店対抗企画」や「ミスター・ミスコンテスト」、ヒーローショーをはじめとする「ちびっこ企画」もご用意。さらに、2020東京オリンピック・パラリンピックに関するスペシャルイベントも計画しています。



トーガ君！



「学園祭運営局は今年、1年生が一気に増え、現在は約100人が所属しています。人数が増えた分、去年以上に活気にあふれています！ 昨年からは芸能人ゲストを増やしたり、装飾に力を入れたり、より楽しい学園祭目指して運営局の各班が頑張っています。今年の学園祭2日目にはオープンキャンパスも同日開催されるので、高校生の皆さんもぜひ足を運んでください。大人からお子さんまで、皆様のご来場をお待ちしています！」

学園祭運営局 局長  
長坂 響  
現代経営学部3年  
秋田県立湯沢翔北高等学校出身



# サークルや同好会も続々誕生！ スポーツもアツいTOGAKU

男女テニスや硬式野球部といった部活動に加え、多彩なサークルが活動をスタート！  
大学公認団体としては日本初のストリートサッカー同好会や東日本初のボッチャサークル  
などが誕生し、TOGAKUはスポーツシーンでも盛り上がりを見せています。

## 男女テニス部

関東学生テニストーナメント／関東学生テニス選手権

### 夏関で準優勝に輝くなど 小松莉奈選手が大健闘！

4/30(月)～5/6(日)の春関(関東学生テニストーナメント大会)本戦で、4年の小松莉奈選手がシングルスベスト16入り、3年の林桃香選手とのダブルスでもベスト16入りを果たしました。また、女子シングルスでは4年の小野瑞希選手が、男子シングルスでは3年の神田留尉選手がともに本戦に進出し、健闘しました。

8月の夏関(関東学生テニス選手権大会)本戦では女子シングルスで小松選手が準優勝。さらに男子ダブルスの市瀬(3年)・神田(3年)ペア、女子ダブルスの二宮

(2年)・羽柴(1年)ペアがともに2回戦に進出し、成長の見える大会となりました。

全日本学生テニス選手権大会

### 女子シングルス&ダブルス ともにベスト16入り！

8/13(月)から岐阜メモリアルパークで開催されたインカレ(全日本学生テニス選手権大会)本戦に、小松莉奈選手(シングルス・ダブルス本戦)と林桃香選手(ダブルス本戦)が出場。猛暑や豪雨など厳しい天候の大会となりましたが、小松選手はシングルスで4回戦に進出してベスト16入り、ダブルスの小松・林ペアも3回戦進出を果たしてベスト16に入りました。



小松・林ペア

### TOGAKUまつど女子オープンテニス 単複ともに優勝の快挙！

6/25(月)～7/1(日)に開催されたTOGAKUまつど女子オープンテニス2018では小松選手がシングルス優勝、ダブルスでも小松・林ペアが優勝を飾りました。同大会での本学学生の優勝は単複ともに初めてです。

## 硬式野球部

### 春季リーグは5勝5敗で2部4位 秋季は2部優勝、1部昇格を目指す！

春季リーグ戦を2部で闘った本学硬式野球部。最終戦では日大生物資源科学部と対戦し、猛打が爆発！1イニング過去最多の14得点を含む大量23得点で快勝しました。



春季の最終成績は5勝5敗の4位。目指す優勝には届きませんでしたが、監督からは「上位チームに勝てない要因は見えている。修正して臨んだ最終戦では手応えを感じた」と、来季に期待の持てるコメントも。秋季リーグでは2部優勝、1部昇格を目指します。

また、硬式野球部は8/19(日)に高校生参加型の合同練習会を開催。高校生の熱意に刺激を受けたようです。

## ストサカ

### 大学公認団体 としては日本初!?

今年新設のストリートサッカーサークル「すとさか同好会」。6月にはお台場のイベントで競技の魅力をPRしました。部長の永井佑京選手(グローバル・コミュニケーション学科1年)はデンマークで行われた世界大会でベスト32入りしました。



## サーフィン

### 全日本選手権で 猪狩選手が5位に！

本学公認サーフィンサークル「マーベリックス」の猪狩佑典選手(英語コミュニケーション学科4年)が全日本サーフィン選手権 学連支部予選に出場し、メンクラスで準優勝。さらに、8月に行われた全日本サーフィン選手権で5位に輝きました。



## フィギュア

### フィギュアスケート サークルが誕生

今年から「東洋学園大学スケート部」が活動開始。5/20(日)に開催された第46回関東学生フィギュアスケート選手権大会に戸室梨々奈選手(人間科学部1年)が出場し、女子6級クラスで12位の好成績を残しました。



## ボッチャ

### 東日本初の大学 ボッチャサークル

今年新設された「TOGAKUパラスポーツ」は、パラリンピック公式種目ボッチャのサークル。メンバー4名は車椅子使用者で、選手経験がある学生も。今後は大会への参加や競技の普及活動も行う予定です。



# 今こそ、「東京」で「東京」を学ぶ。

最先端のグローバル都市・東京のど真ん中に建つTOGAKUは  
旬な題材にあふれる東京を教材として学べる恵まれた環境です。  
しかも、「2020東京オリンピック・パラリンピック」に向けて  
街が激変しつつある今は、東京を学ぶにあたって絶好のタイミング。  
この連載では毎回、「東京」をテーマにした各学部の学びをご紹介します。

東京＝旬な題材や学びのタネの宝庫！

Global Economy

Global Business

Inbound Tourism

Community Development

Infrastructure

Vol.3

現代経営学部「日清食品との産学連携プロジェクト」

## 大手企業との連携で、ビジネス現場のリアルを学ぶ

現代経営学部の「マーケティングとメディア研究ゼミ」（八塩圭子准教授）では、日清食品株式会社との産学連携プロジェクトを実施しています。同プロジェクトは、八塩ゼミの3年生が4チームに分かれ、「カップヌードル」「日清焼きそばU.F.O.」「チキンラーメン」「日清カレーメシ」それぞれの売上を倍増させるための戦略を考案・提案するという内容です。

学生たちは、今年5月のキックオフで日清食品の東京本社を訪問し、同社のブランド戦略や広報展開について理解を深めたのち、戦略立案のワークショップや中間プレゼンテーションなどを行いました。今後は11月の最終発表に向けて、アンケート調査や論点の整理を進めていく予定です。

東京・大阪に本社を置き、日本の食トレンドを牽引する日清食品と連携できるのも、東京にキャンパスを構える本学ならではの。大手企業とのやりとりを通じて、学生たちはビジネスの現場を肌で感じ、成長しています。



上：8月の中間プレゼンは、カップヌードルミュージアム内のホールで実施／左下：カップヌードルミュージアムを見学し、開発の歴史も学んだ／右下：中間プレゼンでは、チームごとに独自のアプローチで戦略を発表。社員の方々から「着眼点が新しく面白い」などの評価もいただいた

## プロジェクトの流れ

### キックオフ(5月)

日清食品の東京本社を訪問し、同社社員から販売戦略や商品特性を学ぶ

### 戦略立案(6月)

日清食品のマーケティング担当者を本学に招き、戦略立案に向けたワークショップを開催

### 中間プレゼン(8月)

学生チームが考えた戦略を日清食品にプレゼン。フィードバックをいただく

### 調査(10月)

学園祭の模擬店で企画商品を販売し、アンケート調査を行う

### 最終プレゼン(11月)

これまでのフィードバックやリサーチを反映した最終案を日清食品にプレゼン